

令和7年度 学校経営計画書

学 校 名 三次市立神杉小学校

校 長 名 高下 節雄

I 学校の状況

学級数	8学級	児童・生徒数	90名	教職員数	16名
メールアドレス	kamisugi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページ アドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/kamisugi/				

II 学校教育目標

確かな学力と豊かな人間性をもち 自ら伸びる子どもの育成
(自ら学ぶ 認め合う 元気)

III 使命・存在意義（ミッション）

変化の激しいグローバル社会の中、児童一人一人が夢や目標をもちそれを実現するため、自らが主体的に考え、判断し、他者との協働を通して、チャレンジしようとする子どもの育成をめざす。また、「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育成するために、授業力、自己肯定感を高める取組を充実させる。さらに、ふるさと神杉を愛し、次代を担う自覚が育つ「地域とともに成長する学校」づくりを進める。

- ・ 子どもたちが夢や目標をもち、自ら伸びる学校
- ・ 子どもを主語にし、チャレンジを応援する学校
- ・ 一人一人の子どもたちが安全・安心に学べる学校
- ・ 家庭や地域社会とつながり、子どもを育てる学校
- ・ 保小中高で連携して教育活動に取り組む学校

IV 重点事項（努力点）

- 主体的に学びに向い、自分の考えを高め、伝えようとする子どもの育成
 - ・ 「他者と協働し、課題を主体的に解決しようとする児童の育成～地域とともに共創する『神すぎる未来プロジェクト』の創造を通して～」を研究主題に掲げ、カリキュラムマネジメントを進め、主体的な学びに向かう授業改善を図る。
 - ・ 特別支援教育の視点に立ち、関係機関等と連携を図りながら、個別最適な学びと協働的な学びを組織的・計画的に進める。
- 友だちの良さを認め合い、かかわり合って前向きに行動できる子どもの育成
 - ・ 子ども自身が課題を発見し、主体的に課題を解決しようとする力の醸成を図る。
 - ・ 自己肯定感・自己有用感の向上を図り、一人一人の児童のチャレンジを応援する。
 - ・ 縦割り班活動や委員会活動を通して、他者と協働して取り組める力を育成する。
 - ・ 目標に向かって最後までねばり強く取り組む態度を育成する。
- 信頼と協働に支えられた地域とともに成長する学校づくりを推進
 - ・ コミュニティ・スクールの本格実施を受け、地域との連携・協働をさらに進める。
 - ・ 地域の教育力を活用した「神杉ならではの」教育内容を創造する。

V 中心価値・行動規範

児童、保護者、地域から信頼され、魅力ある学校

(魅力ある学校)

児童：学んでよかった

地域：一緒に育ててよかった

保護者：通わせてよかった

教職員：勤めてよかった

VI 現状分析

外 部 的 要 因	○（支援的要因） <u>【地域】</u> ・学校へ寄せる期待が高く、学校や子どもとのつながりが強い。（行事への参加、GT等） ・自治会連合会、JAひろしま、民生児童委員、読み語りボランティア等、学校教育に理解があり大変協力的である。 ・学習素材（自然・歴史・文化・施設）や人材が豊富。 ・保育所・コミュニティセンターと隣接し、日常的な交流ができる。 ・保小中高間の協力体制ができています。 ・人口減少に歯止めをかけるための方策を考え、様々な取組が行われている。 ・CS初年度を迎え、関心が高まる。 <u>【市教委】</u> ・適切な人的措置がある（学校支援員・介助指導員等）。 ・働き方改革への取組が進んでいる。 ・ふるさと三才を愛する心を育むための体験活動が重視されている。 ・研修の機会が充実している。（みよし結芽人育成研修の実施） ・相談体制が整っている。 <u>【県教委】【国】</u> ・働き方改革の推進がされている。 ・人材育成への支援がある。	S（強み） <u>【学校】</u> ・児童数の変動が少ない。活動を工夫しやすい規模で、全職員で全校児童を指導できる。 ・職員は職務遂行に対する向上心が高く、心理的安全性の確保の中で、同僚性を高めながら各自の責任を果たしている。 ・本校の伝統的な取組を大切にしている。（選択と集中） <u>【児童】</u> ・外でよく遊ぶ。 ・異年齢の交流が多く、学年を越えて仲が良い。 ・高学年がリーダーシップを発揮している。 ・地域行事や地域体験学習、弁当の日の取組に意欲が高い。 ・地域行事には多くの児童が参加している。 <u>【保護者】</u> ・保護者同士の繋がりが強い。 ・学校に対して大変協力的である。 ・PTA行事等、積極的に関わる人が多い。 ・前向きでマイナス発言が少なく、保護者全体で盛り上げようという意識が高い。	内 部 的 要 因	支援的要因と強みを生かした活動・取組 ☆表現力の育成（話すこと） *主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成（課題発見・解決学習を軸とした授業づくり） ☆特別支援教育の充実 *校内支援体制の充実と日常的な研修・計画的な専門機関との連携 ☆「地域とともに成長する学校」づくり *地域の教育力を活用した神杉ならではの教育内容の充実（生活科・総合的な学習の時間を中心としたコアカリキュラムの創造） *保護者・地域と連携した弁当の日の継続（6年生おすめレシピと学級園の野菜の活用） *CSの本格実施 ☆運動朝会の充実 *異年齢交流が進み、体力向上につながる運動朝会の充実
	T（阻害的要因） <u>【地域】</u> ・子どもたちとの距離が近過ぎることの弊害がみられる（子どもの態度・言葉づかい等）。 ・高齢化が進み、地域を支える人材の世代交代が迫られている。 <u>【市教委・県教委・国】</u> ・予算が削減される。	W（弱み） <u>【学校】</u> ・各活動の目的意識や取組について職員の意識に差がある。 ・子どもの主体に任せることが少ない。 <u>【児童】</u> ・読書量に個人差があり、学年が上がるにつれて読書量が少ない。 ・自己肯定感・有用感が低い。 ・指示待ちが多い。 ・健康・安全への意識が低い。 ・基本的な生活習慣の確立。（視力1.0未満の児童の増加） ・日常的なあいさつができにくい。 <u>【保護者】</u> ・教育力の差や保護者間のつながりに偏りがある。 ・メディアとの付き合い方への意識が低い。		塩町中学校区 CS 身に付けさせたい資質・能力 主体性・表現力・協働性 弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策 ☆チャレンジする児童の育成 *児童一人一人に自己決定の場を与え、やり切らせる *児童会活動、縦割り班活動の工夫・充実 *代表委員会と学級会活動をつなぐ話し合い活動の充実 ☆読書活動の重視 *読書活動の工夫・充実 *読書環境の整備 ☆積極的な生徒指導の充実 *規範意識の育成 *生活リズムチェックの工夫 *積極的な情報発信

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価項目
知 確かな学力	主体的に学びに向い、自分の考えを高め、伝えようとする子どもの育成を図る。	基礎・基本の学力の確実な定着、向上を図る。	・「やるゾウタイム」の徹底やタブレットドリル等を効果的に活用し、基礎・基本の学力の定着を図る。 ・ICTを効果的に活用した授業づくりを深化させる。	・三次市学力到達度検査において、（全国平均＋7点以上）を60％以上にする。 ・単元末テスト（国語・算数）80点以上の児童の割合を70％以上にする。
		思考力・判断力・表現力の育成を図り、育成すべき資質・能力の向上を図る。	・研究主題に迫る単元開発を図る。 ・達成された姿の明確化及び共有を図り、取組を行う。	・各教科等との関連を図り、各学年1単元の単元開発を行う。 ・年間2回の児童意識調査を行い、「主体性・表現力・協働性」の肯定的評価を3p以上にする。
			・読書活動を充実させ、読書に親しむ機会を多く設け、読書量を増やす。	・「本を読むことは楽しい」児童の割合を80％以上にする。
徳 豊かな心	友だちの良さを認め合い、かわり合って前向きに行動できる子どもの育成を進める。	自ら考え、判断・行動できるチャレンジする気持ちを育てる。	・自己選択・自己決定の場を設定し、児童に様々な場面でチャレンジする経験をさせる。 ・協働することの大切さを実感するため、児童会や縦割り班活動の充実を図る。	・毎学期の振り返りシートにおける肯定的評価 ① リーダーの自覚と責任 80％以上 ② 委員会活動（5.6年生） 85％以上 ③ 縦割り班活動 80％以上
		挨拶や言葉づかい等、場や相手に応じた行動のあり方を考え、人権意識や自己有用感を育てる。	・スマイルカードの取組を充実させ、1人1人の良いところを認め合う活動を充実させる。 ・自分から進んであいさつができるようにする。	・毎学期の振り返りシートにおける、スマイルカードに関する肯定的評価を80％以上にする。 ・登校時や来客の方に対し、自分から進んであいさつができる児童の割合を80％以上にする。
体 たくましい体	体力の向上と生活習慣の改善を図る。	基礎体力の向上を図る。	・運動朝会の内容や方法を工夫し、楽しんで基礎体力を向上できるようにする。	・体づくりに関するアンケートの肯定的評価80％以上にする。
		健康に関心をもち、健康な生活をつくらうとする気持ちを育てる。	・「お弁当の日」の取組を工夫し継続する。 ・自分の生活をコントロールする力を育てる。	・生活リズムチェックで、目標を達成できる児童の割合を70％以上にする。（高学年）
開かれた学校	信頼と協働に支えられた地域とともに成長する学校づくりを推進する。	積極的な情報発信を行い、保護者の学校に対する信頼度や満足度の向上をめざす。	・学校HPや各種通信などで積極的に情報発信を行うとともに、保護者との連携を主体的に進める。 ・学校の相談機能を充実する。（迅速で誠実な組織的対応） ・業務改善をさらに進める。	・保護者の肯定的評価[3・4]を90％以上とする。 ・職員の超過勤務月45時間以内を100％にする。
		地域とともに成長する学校づくりをさらに進める。	・コミュニティ・スクールとして、小中・地域がさらに連携した取組を進める。	・「子どもの学び応援団」の取組を年間10回以上。 ・地域人材を活用した学習活動を各学年：年間3回以上。

新しい取組

レベルアップ